

Microsoft 365 から Google Workspace への移行に関する 教員向けアンケート結果について

1 調査概要

- (1) 実施時期: 令和 7 年 9 月 11 日から 12 日
- (2) 対象者: TAITO フューチャースクールモデル校の教職員(管理職含む)
- (3) 回答数: 計 30 名(駒形中学校: 16 名 上野小学校: 14 名)
- (4) 回答者の職層等: 校長 2 名、副校長 2 名、主幹教諭 3 名、主任教諭 12 名、教諭 8 名、
養護教諭 1 名、時間講師 1 名、栄養士 1 名
- (5) 回答者の ICT 使用状況
回答者全員が Google Workspace を「使用している」と回答
Microsoft 365 の使用経験: 「4 年以上」15 名、「1 年以上～4 年未満」12 名、「1 年未満」3 名

2 調査結果

(1) 移行に関する全体的な所感

○ 肯定的な意見

「スムーズに移行できた」「戸惑いもない」と感じる教員や、「最初は慣れなかったが、慣れてくると共同作業や情報共有など利便性が分かってきた」や「特に不便さを感じることはなかった」、「操作がしやすい印象を受けている」、「使用しやすい」といった意見も複数見られる。

校務の改善や児童の状況把握が進むなど、クラウドベースのワークフローを実感できるといったメリットを挙げる教員もいる。

○ 中立・どちらともいえない意見

「覚えれば楽になると思われる」、「どちらにも長所と短所があるため、慣れるまでが大変だった」、「視覚的に慣れるまで時間がかかる」といった意見や、「特に何も感じない」という教員もいる。

○ 否定的な意見

「全体的に使いにくい」と感じる教員もいる。

Microsoft でできていたことが Google だとできないために「調べながら作業をするのでとても時間がかかり大変であった」という経験、既存の Word や Excel ファイルからの移行がスムーズにいかず「難しい」と感じたり、「新しいことが全く頭に入らず、混乱することが多い」と不安を訴えたりする教員もいる。

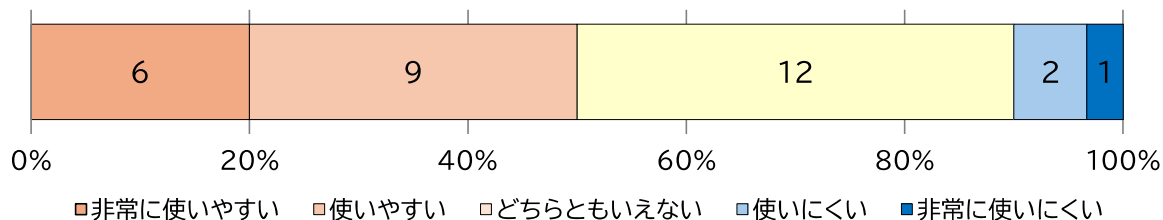
○ 特に強い懸念

上野小学校の教員からは、Microsoft と Google でできることに大差がないと感じる中で、移行の必要性を感じないという意見がある。Microsoft から Google への移行には「相当大変な労力がかかり、業務を圧迫し、残業時間が大幅に増えてしまう要因になった」との指摘もある。運動会や入学式などの行事から職員会議資料まで、「100 をゆうに超える文書を 1 つ 1 つ Google 化していく作業は、働き方改革が叫ばれる教員の労働環境の中で強いる業務ではない」との意見もある。

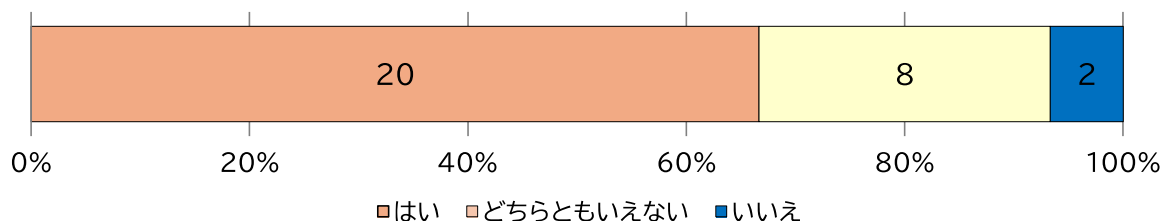
(2) Google Workspace の使い勝手と作業効率

Google Workspace の使い勝手と作業効率については、以下の結果が得られた。

○ 移行後の Google Workspace の使い勝手は、Microsoft 365 と比べてどうですか。

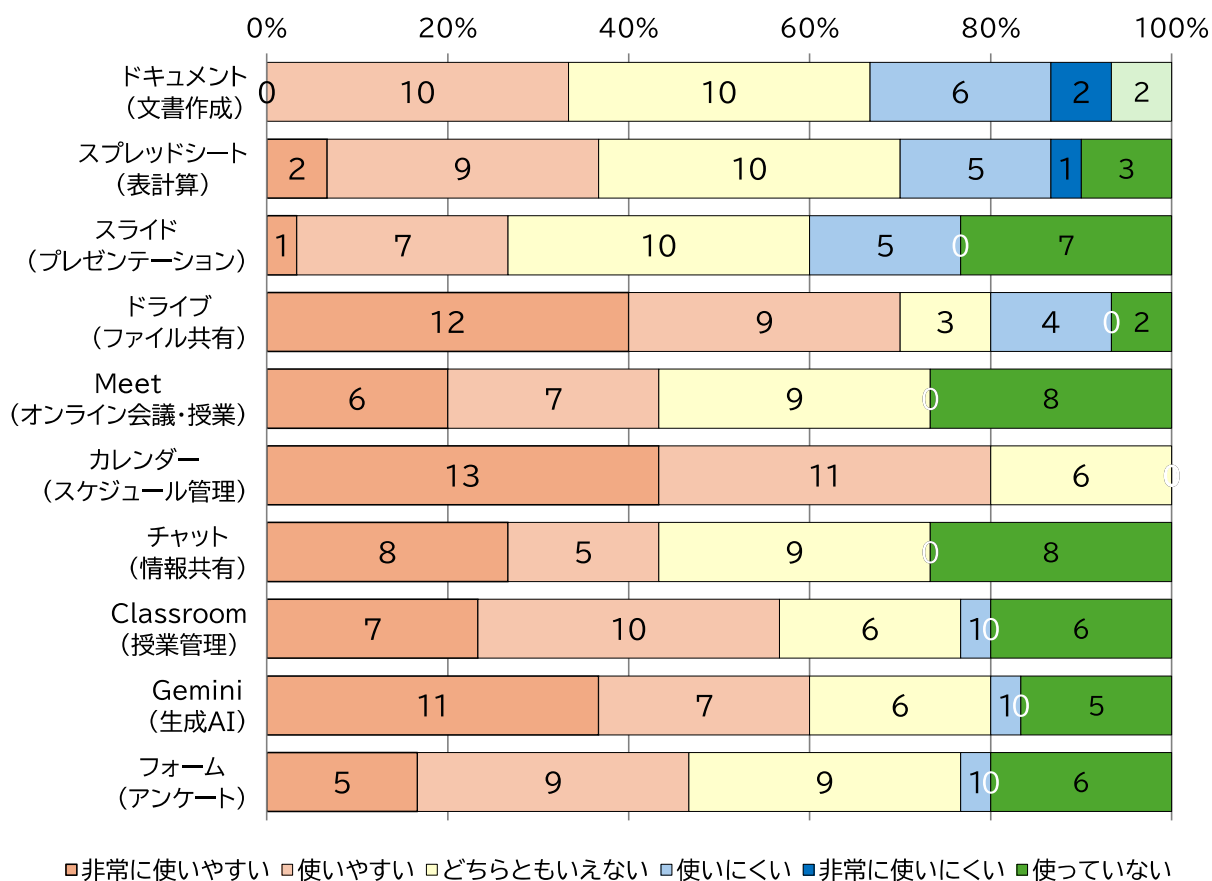


○ Google Workspace の利用で、作業効率は向上したと感じますか？



(3) Google Workspace アプリケーションの使用感

個別のアプリケーションについても様々な使用感が寄せられている。



ドライブのメリットとしては、ファイルの同時編集、即時更新、リンクやデータの共有のしやすさ、Classroom のメリットとしては、課題機能の活用による個々の進捗把握の容易さ、児童の作品提出や評価のしやすさなどが挙げられている。

また、チャットは、全体共有の促進や情報の伝達スムーズ化に貢献していると評価されている。カレンダーは、予定の管理や会議予定への資料添付などに活用されている。

Gemini は、まだ十分に活用されていない様子がうかがえるが、NotebookLM が会議記録や資料のまとめ、業務時間削減に「驚異的な効果がある」と高く評価している教員もいる。

一方、Word や Excel との互換性の問題や、縦書きができないこと、図形での表現がうまくいかないといった点が課題として挙げられている。

(4) 現在の課題や困っていること

Google Workspace の利用で、以下の点が課題として挙げられている。

○ Microsoft Office ファイルとの互換性問題

Word や Excel で作成した文書が Google Workspace に移行する際に「書式や図形などのバグが多数発生したり、文字化けや改行ミスが出てきたりする」ため、作り直しに「大変な労力」がかかるという意見が複数ある。

○ 機能の不足

ドキュメントで縦書きができないことは、国語教育や小学校現場で多用される文書作成において「支障が出る」「不適切」と強く指摘されている。ふりがなを付けられないことも、低学年や合理的配慮を必要とする児童にとって問題とされている。

○ 複数プラットフォームの併用による煩雑さ

現在、Microsoft 365 と Google Workspace の両方が使われているため、「職場でいくつものパスワードを使ったりして煩雑」、「仕事量が倍になったり、書類の整理が散らばってしまう」という問題が指摘されている。

○ 教員の適応性・研修の必要性

新しいシステムに不慣れな教員は「取り残されている気持ち」になったり、「無力感・多忙感」を感じたりしている点が問題とされている。

○ その他

ネットワーク速度が遅いときに Google Workspace が使えない、Microsoft 端末で Google Workspace を使用すると動作が重くなることがある、Classroom の通知が来ない、ドライブの容量への懸念などが挙げられている。

(5) 提言・要望

回答者からは、今後の運用について以下の提言・要望が寄せられている。

○ プラットフォームの統一

「どちらかに統一してくれると教員の研修やスキルアップも早い」との意見が複数あり、煩雑さを解消するためにも、Google と Microsoft のどちらかに統一してほしいという要望が出ている。

○ 教育委員会・区役所との連携

「区役所（教育委員会だけでなく全部署）も全て Google 化して、公の文書が Google 化されるのであれば、学校も変わる必要がある」という意見や、教育委員会にも全ての文書を Google 化してみて、現場の苦勞を知ってほしいという切実な要望も聞かれる。

○ 端末戦略の検討

端末予算（上限 5.5 万円）内で Windows 機では児童の要求スペックを満たせず、iPad では予算を超える可能性があるため、Chromebook なら収まることから、OS ではなく端末の種類で戦略を検討すべきではないかという提案がある。

3 まとめ

Microsoft 365 から Google Workspace への移行は、共同作業や情報共有の促進、作業効率の向上など、多くの肯定的な効果をもたらしていることが明らかになった。特に、Google Workspace が提供する共同編集機能、自動保存、履歴管理、そして NotebookLM のような生成 AI ツールの活用は、校務改善や業務時間削減に貢献していると高く評価されていた。

しかし、Microsoft Office ファイルとの互換性問題、縦書きやふりがなといった日本語特有の機能不足、複数プラットフォームの併用による教員の負担増、そして、不慣れな教員へのサポート不足といった課題も浮き彫りになった。特に、文書の Google 化に伴う膨大な作業量は、働き方改革が進む教員の労働環境において過剰な負担となっているとの指摘もあった。

これらの結果から、Google Workspace の導入は多くのメリットをもたらす一方で、既存の学校文化や業務フローとの整合性、教員のスキルギャップ、そして外部機関との連携における互換性の問題に慎重に対応する必要があると言える。プラットフォームの統一、機能面での改善、そして教員への継続的かつきめ細かなサポート体制の構築が、今後の円滑な運用に向けた重要なポイントと考えられる。